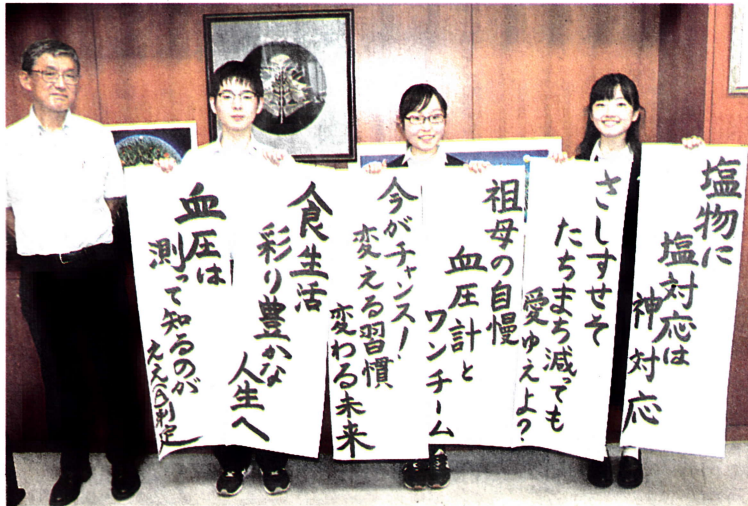


## 高血圧川柳・標語甲子園

## 高松高チームが最優秀



高血圧川柳・標語甲子園で最優秀賞に輝いた(右から)三谷さん、小西さん、松本さん＝高松市番町、高松高

高血圧予防に関するユニークな川柳や標語を全国の高校生から募集したコンクール「高血圧川柳・標語甲子園2020」で、高松高3年の小西涼菜さん(18)、松本大輝さん(17)、三谷碧依さん(18)のチームが県内で初めて最優秀賞に輝いた。3人は「初めての応募だったが、優勝できてうれしい」と喜びを表した。

## 「神対応」A判定 若者言葉を駆使

同コンクールは血圧や健康に関する意識を高めてもらうおと、日本高血圧学会と日本高血圧協会が2018年から毎年開催。1チーム2〜5人の団体戦で1人2作品まで応募でき、3回目となる今年は全国から26チームが参加した。

高松高3人のチーム名は「Beautiful blood」。コンクールへの参加は2年生の時に同じクラスで保健委員をしていた小西さんと松本さん

が、養護教諭から勧められたのがきっかけで、小西さんが友人の三谷さんを誘い、3人で計6作品を応募した。

三谷さんの「塩物に 塩対応は、素っ気なくあし

らう」「塩対応」と心を込めて応募する「神対応」という若者言葉を駆使し、塩分の多い食品を控えた食生活の大切さを表現。松本さんの「血圧は 測って知るのが ええ(A)判定」は、血圧測定の重要性を高校生らしく全国模試の合格判定で例えた。

ゲスト審査員の漫画家やくみつるさんは「高校生だけあって若い感性に裏打ちされている」、作家の大宮エリーさんは「神対応やA判定など学生らしい表現にすがすがしさを感じた」と講評した。

高松市番町の同校で30日、表彰式があり、同学会所属の香川大医学部の西山成教授と海部医院(高松市)の海部久美子院長が盾と目録を手渡した。

三谷さんは「一生懸命考えた作品を評価してもらってうれしい」と笑顔。小西さんは「家族で高血圧について考えることができた」、松本さんは「食生活を見直すきっかけになった」と声を弾ませていた。